

広報かわにし

一人口の動き一

12月1日現在

男	5,949人
女	6,215人
計	12,164人
世帯数	2,603世帯

発行所 川西町役場 発行者 川西町 <町長 中村壮吉>
 編集人 星名四郎 印刷所 白南風社 定価 1部5円



青年学級生の街頭募金<5日上野で写す>

◆十二月の行事

- 一日 上野寄宿舎開設
- 二日 田戸冬季分校開校式
- 二日 越ヶ沢冬季分校開校式
- 二日 小中学校長会議
- 三日 学校警察連絡協議会
- 五日 大倉冬季分校開校式
- 五日 桐谷冬季分校開校式
- 六日 民生委員会
- 七日 藤沢冬季分校開校式
- 八日 定例教育委員会
- 八日 木落冬季分校開校式
- 十四日 米多収穫競争会表彰式
- 十五日 年賀郵便特別扱い
- 十八日 家庭の日
- 十九日 農業委員会
- 二十一日 国土調査委員会
- 二十二日 町議会
- 二十八日 乙用納め

才未助けあい

「才未をひかえ恵まれない人たちに明るいお正月を」と、川西町共同募金会、川西町社会福祉協議会では浄財を受け付け中です。ご協力をお願いします。

青学生の街頭募金

町の青年学級生がこどももさる五日、町内数カ所街頭募金をおこなった。中心となったのは上野地区の女子学級生で、道ゆく人びとの協力で集まった二千五百十二円を社会係に寄託し、才未助けあい運動にひと役かった。

妻有荘慰問

(その一) 民生委員協議会老人福祉部会では、十一月三日に養護老人ホーム妻有荘を慰問し、同時に町出身の入所者と身の上相談の機会をもつなどたいへん喜んでいただいた。

(その二) 青年学級ではもう年中行事のようになった老人ホームの慰問が十一日に予定されている。参加するのは丸山和子さんほか七名で、おどりで老人たちをなぐさめたり、肩もみなどをして家庭の味をちよっぴりあじわっていたかどうかというもの。

広報スポット

役場の年末年始
二十八日ご用納め、二十九日から一月三日までやすみ、四日ご用納め。

新年の俳句募集

①新年雑詠を五句以内 ②しめきは本月末 ③はがきで千手中央町の太田白南風師あて投句のごとく ④入選句を「かわにし俳壇」に掲載する。同好多数の投句をおまちします。

母校へ寄附

前橋市在住の杉田健次さんは、このほど法事のため来町したのを機会に、母校である千手小学校の教材費の一部にしてほしいと、町収入役を通じて二万円を寄附された。杉田さんは現町議会副議長田中与三郎さんの実弟である。

賀状の差し出し

年賀特別郵便の取扱いは十五日から開始されますが、年賀はがきを差し出すときは ①束ねて出すときは上側に「年賀」と朱書した付せんを入れる ②一通ずつ出すときはあて名の左側に「年賀」と朱書して差し出すことを励行しましょう。

1町議会報告

町の境界変更を議決

桐山の松代編入は四月一日

桐山部落を松代町に編入するための「町の境界変更の件」は、予定どおり、十一月十四日に招集された臨時会において満場一致で議決された。

この日は相手方の松代町でも同じ議案が議決されたので、その結果について議決書原本その他必要な書類がまとめられ、二十一日に両町で県庁へ出頭し、知事に提出された。県ではこれを十二月県議会に提案する予定で、その議決を待って自治大臣に届け出がなされ、自治大臣の告示によって四十二年四月一日から松代町編入が正式に決定する。

松代編入は住民福祉のため

懸案の桐山部落松代編入は、こんどの議会ではっきり結論が出されたわけであるが、桐山部落を川西町から切り離して松代町へ編入することになった事情は、おおむね次のとおりである。

川西町大字桐山部落は、現在戸数わずか十七戸の小部落で、その位置は東頸城郡松代町及び刈羽郡高柳町両町の境界点附近、したがって三郡三町の境界点附近にあり隣接している松代町大字桐山部落とともに一つの集落を形成している。隣接している両部落が名称まで同じ桐山であるというだけでなく、その関係は二つの別々の部落というより一つの部落の中央に川西町と松代町の境界線が引かれていたといった形となっている。このような地理的条件は当然に経済

交流や縁組関係にも反映して松代地区との関係を密接なものとしていくが、特に地域の住民生活に最大の利害関係を持つ道路交通については松代町依存の傾向がいつそう際立っている。すなわち松代町の中心部へは県道が通じており、定期バスを利用すれば三十分足ら

ずで出られるのに、川西町の中心部へ出るには自転車さえ通れない山道を越えて中仙田方面へ出なければバスに乗ることもできない。たとえば川西町役場へ出向くとすれば、中仙田まで徒歩で七・二キロ、中仙田からバスで一〇・三キロと三時間近くかかるわけである。また全行程をバスで行くためには松代町の中心部を通って十日町市の西部を経由する約三〇キロの大迂回路を経営の異なる二つのバス会社の路線を利用し、前後三回乗り替えなければならぬが、その所要時間は二時間である。まして冬期積雪期間においては想像以上の困難が伴い、事実上交通絶えたと見てさしつかえない状況である。

郵便の集配は松代局、電話は高柳局といった状態で、いずれの面から見ても川西町の行政区域に属していることは不自然であり、かつ不便であるという環境にあったわけである。

このような状態の改善をはかるため、昭和四十年春以来部落民の数回にわたる話し合い及び隣接松代桐山部落との協議を行なった結果同年九月、川西、松代両町当局に川西桐山を松代町へ合併するよう正式に申し入れを行なった。これをきっかけとして、両町で検討を重ねた結果、従来から生活環境を同じくする川西の桐山を松代町に編入することが住民福祉の上からも適当であるという結論に達し境界変更について合意を見たわけである。

消防自動車(千手)更新の請願を採択

桐山の松代編入に伴う町の境界変更のほか、この臨時会で議決された案件は次のとおり。

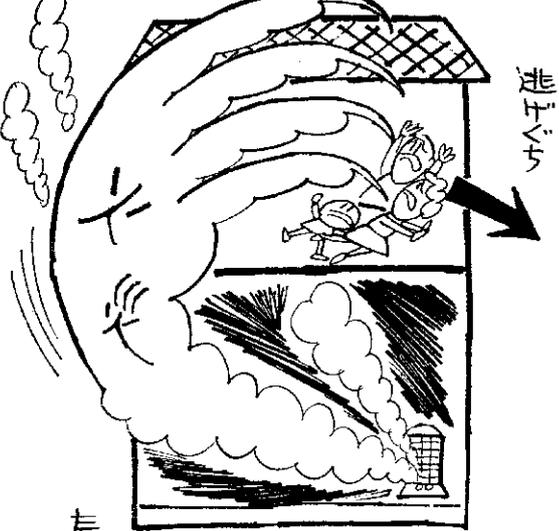
▽新潟県町村職員退職手当組合を▽組織する地方公共団体の数の増加について

これは、新潟県町村人事事務組合、村上市岩船郡町村老人ホーム組合等七つの一部事務組合を県町村職員退職手当組合に加入せしめるといふもの。

▽消防ポンプ自動車(千手)更新に関する請願(富井正治ほか)

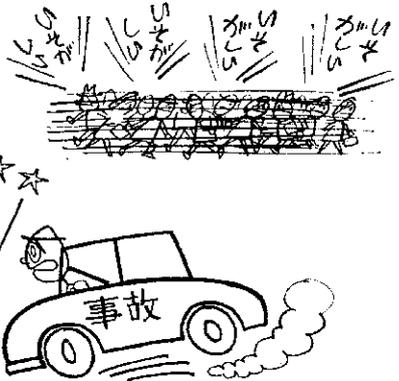
(要旨)購入後十一年を経過した千手地区の消防ポンプ自動車は老朽して非常の際間に合わない事態が生ずるおそれがあるので、この際更新されたい。(採択)

火災シーズン 必ず逃げ口を……



横断のしかた

左右の見とおしのきくところを選び、車の流れのとぎれたときに横断しましょう



こどもから目を
はなしがち
です



年末多忙

道路を横断する前には必ず立ちどまり、まず右を見次に左を見、さらにもう一度右を見て安全を確かめてください。

いきなり車道にとび出すことは危険です。

車のすぐ前やうしろを横切つてはいけません。その車にひかれる危険があるだけでなく車のかげで見えないほかの車にひかれるおそれがあります。

横断は直角に、ななめに横断してはいけません。

横断するときは走ってくる車に手のひらをむけて運転者にわかるように合図しましょう

歩行者がいるとき車は一時停止することにしていますが、急にはとまらないので十分な注意が必要です

路面が凍ったり雪のときは特に危険です。

さよなら... ことしのできごと

- 一月 六日 消防出せめ式
十日 母子センター竣工式
十一日 初議会
十三日 橋中特別教室竣工式
二月十四日 新大研究生へき地教育研究来町
三月 六日 滑行、大回転スキー大会
十三日 町民レクリエーション大会
四月 八日 公衆衛生推進総会
十三日 幼稚園開園式
十七日 川西町運転者講習会
五月 三日 成人式
五日 慰霊祭
八日 知事選投票日
十五日 青年学校開校式

町の声

例年になく早い降雪に畑の野菜はもちろん、雪囲いも間に合わず... 果樹の苗木は相当な被害をうけてしまった。日本のチベツトといわれるこの魚沼の宿命とはいえ、なにかやり切れない気がしないでもない。村の青年たちの殆んどが出稼ぎに行ってしまった。あちこちの学校で冬季分校が開校された。昔はこの冬期間子どもの行き帰りを心配していた親たちも現在の設備された寄宿舎に上級生下級生が一階に仲良く共同生活を楽しみながら勉強していることを考えるとき、

- 六月 五日 第二回県民スポーツの日
十日 社教公民館委員会議
二十日 小学校連合体育大会
二十四日 中学校学力調査
二十六日 中学校球技大会
七月 五日 開場整備役員会
十日 町婦人会総会
二十四日 郡市社教大会
八月 九日 災害復旧入札
十七日 農協合併会議
九月 一日 産米の収穫期対策
二日 合併十周年記念式
八日 千手神社祭礼
十月 五日 中仙田保育所竣工式
九日 節黒城観光道路入札
二十日 スポーツフェスト
二十五日 上野小給食棟竣工式
二十五日 実績発表大会
二十五日 健康優良児の表彰式
十二月十四日 米多収穫競争会表彰式
二十五日 町議会

どんなにか心安まる思いがするのと、町からの補助や村の先生たちの毎日のご苦労は並大抵のものではない。が、この子どもたちが半年間親もとを離れて夜などさびしい思いにかられないでもない。こんな時村の人たちの心暖かな激励やマンガ本などがとってもらい、これから年末にかけてそれぞれお忙しい日が続くことでしょうが、夕飯後にキヤラメルのお十ヶも持って遊びに行つてやって下さい。規律正しい生活をみながらわが家の子どもにそれとなく聞かせられるのも大切なことではないでしょうか。そしてこの子どもたちを明るく気持ちよく暖かく見守つてやりたいものです。(上野S)

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに
水品 匡博 真治長男 三領
星野 昭仁 鋒太郎長男 野口
村越 昭 新一長男 野口
齋木 行弘 藤一男 小脇
登坂 真奈美 等 三女 赤谷
登坂 久仁子 信雄二女 岩瀬

昇天—御めい福を祈る

小海 磯吉 小根岸 九二
登坂 安治 赤谷 八六
黒島 善治 伊友 八三
星名 トノ 伊友 八二
清水 良作 寺ヶ崎 八一
南雲 サク 中仙田 八一
小林 ミサ 中仙田 七七

結婚式を簡素化せ

このごろ、結婚式がとみにハデになった。何年前かに、婦人会や公民館のきもいりでそろえた貸衣しようも、最近ではほとんど利用のし手がないらしい。嫁入り先にもシンや洗たく機があるというのに、わざわざ新しいのを買って持たせてやっている。トラックに山積みして送った荷物が、式場せましく飾られているそう。ふりそで姿もあでやかな花嫁を見てためいき。あんなにゼンをかけるやたまったもんじゃなない。オラも年ごろの娘があるども、そんときがきたらなまじよしたらよいやら、とつぶやく親御さんが多い。町のある男の有識者に、あなたはどう思いますかときいてみた。

たかさご—御円満に

◎新郎 平野 逸平 四郎兼
◎新郎 中村智恵子 柏崎市から
◎新郎 柳田 紀一 山野田
◎新郎 村山ヒロコ 倉俣から
◎新郎 宮澤由志三 山野田
◎新郎 春日清江 樽澤から
◎新郎 小林 秋男 中屋敷
◎新郎 宮澤紀美子 十日町から

自分のかわいい娘のことだもん、親としてできるだけのことをしてあげたい、という返事。そのできただけというのは、返すメドのつとだそう。借り金をしても、という気がもたらうが、この気もちがいつしか世間態を惹きし、ムリを重ねて豪華さを競い合っている。農村の嫁キキンの拍車をかけるように、たたらバカけている。フランスでは、うちの娘も一人前に話しあいでできるようなもの。これだけで結婚の条件になっていくことが結婚の条件になっていくとき。日本という国は、自分の娘をふつつか者であるとき、その代償として、着物やタンスも買える、式もできるという

金をつめたときが結婚の条件なのだろうか。たくさん嫁入り道具を持ってきたとしても、むずかしい人間関係を話しあいで切り抜ける技術をもたない娘は不幸なはず。だが、どのような式をあげようとするか、その自由であり、それについてなにも人とかく言う権利はない。人は人、自分は自分なのだから、世間がどう言おうと自分なりに式をあげればよい。しかし、そういう勇気やたくましさをもちたい人様を意識し、ムリを承知で豪華なムードにまぎれていく人が多い。忘れかけた結婚式の簡素化を、このへんで再認識する必要がある。結婚式は、数ある星の中からひとりの男と女が結ばれ、親族縁者

- ◎新郎 小林 正男 中屋敷
◎新郎 小林百合子 中屋敷から
◎新郎 白井 欣一 寺尾
◎新郎 風間 由子 中屋敷から
◎新郎 星名 邦夫 伊友
◎新郎 中條 美枝 元町から
◎新郎 皇名 正樹 伊友
◎新郎 齋藤 洋子 東善寺から
◎新郎 高橋 宇平 坪山
◎新郎 押木 良子 元町から
◎新郎 中村 悦生 坪山
◎新郎 田邊 末恵 京から
◎新郎 野多 武雄 木島
◎新郎 春日クニイ 樽澤から
◎新郎 皇名 豊平 上野
◎新郎 米山 ミヨ 島から
◎新郎 山家 進 落島から
◎新郎 丸山ひろみ 原田から
◎新郎 大平 剛士 原田
◎新郎 小林 キミ 中央町から
◎新郎 小林 正男 中屋敷
◎新郎 村越 嘉一郎 野口
◎新郎 村越 由喜 野口から
◎新郎 大久保利徳 野口
◎新郎 柄澤 サチ 沖立から
◎新郎 南雲 正幸 中仙田
◎新郎 長谷川チヨ 赤谷から
◎新郎 高橋 善一 中仙田
◎新郎 丸山ミヨ子 中仙田から
◎新郎 高橋 幸夫 室島
◎新郎 木村 ミネ 室島から
◎新郎 佐藤 一徳 小脇から
◎新郎 齋木 幸子 小脇から
◎新郎 齋木 アキ 小脇から
◎新郎 齋木 善代蔵 高倉
◎新郎 高橋真知子 高倉から
◎新郎 川崎 馨 越ヶ澤
◎新郎 久保智恵子 長岡市から
◎新郎 長谷川好洋 大白倉
◎新郎 高橋カツ子 福島県から

小・中学生の

防犯標語発表

防犯標語は小・中学生の皆さんをはじめ諸先生方のご協力により七三二の投稿をいただき、去る五日関係者の慎重な審査の結果、次の標語が入選と決定しました。ご応募に厚くお礼申し上げます。賞品は近く学校長あて送付申し上げます。

川西町分区保護司会
川西町防犯組合
川西町青少年問題協議会

- 〇やる前に良いか悪いかもう一度 仙田中一 中条 貞子
〇しめて無くそう心のすまみ 仙田中一 長谷川英子
〇防犯と心に書いて身を守る 仙田中三 田村 好子
〇愛の手で築け住みよい明るい社会 橋中 三 田口 恵
〇良い環境みんなでつくって犯罪防止 橋中 三 中川 進
〇幸せは明るい家庭の茶の間から 川西中三 渡辺 康子

- 〇なくしよう地域ぐるみで犯罪を 川西中三 山家 健一
〇ひとりて悩むな家族に話せ 川西中三 中嶋 久
〇気をつけよ悪は小から大となる 川西中二 柄沢 和美
〇母と子の愛のきつなが非行を防ぐ 川西中二 村山 文子
〇いつでもどこでも正しい心 赤岩小六 長谷川義美
〇家庭の日みんなで話そう楽しもう 橋小 六 羽鳥 明美
〇よい子が育つ明るい家庭 橋小 六 丸山 洋子
〇考えようやっつけてよいことわるい

テバタ従事者の健康

保健婦月例研究会で十日町市中央地区のテバタ従事婦人の健康実態調査結果が発表された。当町にもテバタ従事者は数多いのでこの調査結果を中心にもういちと考えてみよう。

調査は中条病院が中心となり市が協力して行なったもので、テバタ婦人の労働状況、身体状況等についてのアンケートや、身体精密検査、照明、暖房、栄養摂取状況などにわたって、かなり大がかりな調査となっている。

以下、冬期間健康に影響すると思われる事項を調査結果から転記させていたいて、こんごテバタ従事者が快適な作業環境で健康保持ができるよう希望します。

- ①主な症状 ・目の疲れ ・頭痛 頭重 ・肩、背中や腰のはりと痛み ・足の疲れ ・冷え症
②テバタ従事以後の主な症状 三十九才まで四十才以上

保健婦だより

③照明 織物作業は超精度と精度の中間の照明が必要だが、所要照度に達していたのは屋間二四パーセント、夜間五パーセント弱という結果がでている。織機場の広さ平均四坪に対し電灯が五〇パーセント、窓がひとつというものが三パーセントで作業環境の悪いのも指摘される。

- ④暖房 火はち一六七、ストーブ一一六、火を使わない一、と暖房目的には不完全なものが多い。
⑤織機場の床 コンクリート一

今月の相談日

Table with 2 columns: 地区 (千手地区, 上野地区, 橋地区, 仙田地区) and 日 (十二日, 二十日, 十五日, 七日, 二十二日)

たすけあい運動 (十二月)
Illustration of a sack labeled '助けあい運動' (Mutual Aid Movement) with figures carrying it. Text includes: こと 橋小五 根津 照子, 〇家庭のたんらん明るい子ども 千手小六 柳 十四男, 〇美しい強い心で元気な子 橋小 五 山口ヤス子, 〇佳 作 (中学生) 〇悪の芽をつんでよい芽を育てよう 仙田中三 高橋 福男, 〇話し合う家庭に非行はうまれな 橋中 一 山口 友子, 〇非行化のはじめは服のみだれから 川西中三 野上 敏夫, 〇家庭の日一家だらん楽しい我が家 川西中一 田中 修一, 〇悪の芽をみんでつみとるよい環境 川西中二 蔵品ひろみ, 〇非行の芽つみとれわれらの友情で 川西中二 数藤 恭子, 〇良心の声聞きみんで犯罪防止 川西中二 南雲 均, 〇非行の芽つみとる家庭のあたたかさ 川西中二 野上 竜二, 〇ちよつと待て防犯標語を思い出せ 〇心清ければ犯罪なし

赤い羽根 共同募金結果報告
十月一日全国いっせいに行動なわれまして赤い羽根共同募金の結果が次のとおりまとまりました。みなさまのご協力で厚くお礼申し上げます。
一般戸別募金 千手地区 八八五八九円, 上野地区 三四〇四七円, 橋地区 三八八一五円, 仙田地区 六五八一三円, 職場募金 八七一円, 学校募金 一八六三八円, 助けあい運動育成費四六七三六円, 合計 二九三三〇九円
☆ ☆ ☆
和歌山市にて金子 洋石
〇枯るもの枯れ行く中の焚火が温泉の町を抱ける山の眠りけり
小白倉江口 凡石
初旅の孫思いつつ麦をふむ
冬越しの魚見廻る寒の入り
赤 谷高橋 溪月
起き抜けの盆裁の雪払いをり
大倉中条 鉄女
頬寒しバイクの夫の背にしがみ
寺 尾白井すみえ
当座漬夏漬用と大根編む
寺 尾高橋 章子
茶の花のかやくしべの冬日抱き
中屋敷清水ヨシ子
大小の桶に水張り冬仕度